

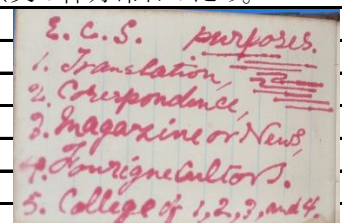
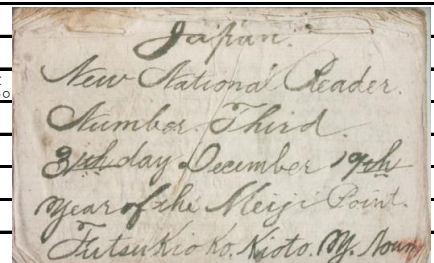
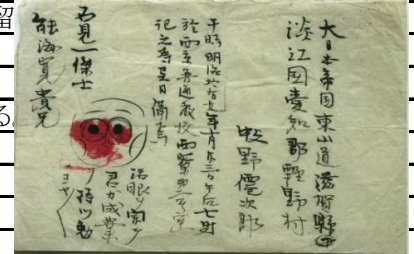
「能海寛の『新仏教徒』運動の軌跡」年表

タイトル	「能海寛の『新仏教徒』運動の軌跡」年表
著者名	隅田正三
雑誌名	能海寛研究会機関誌『石峰』
号	第20号
ページ	91－100
発行年	2015.3.15
E-mail	sekihou@hazaway.com(能海寛研究会)

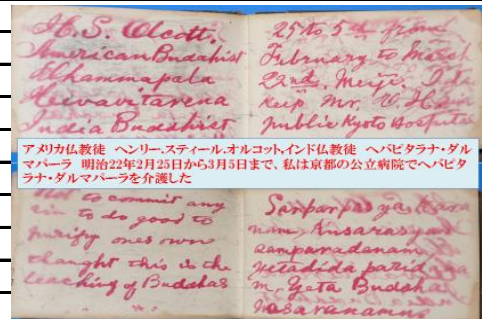
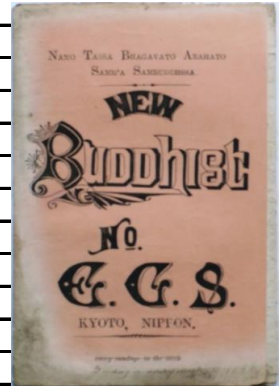
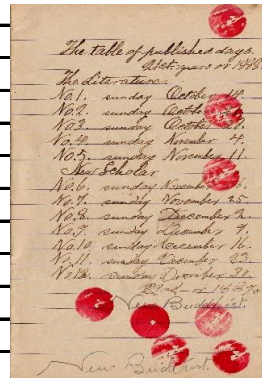
能海寛の「新仏教徒」運動の軌跡

(明治元年～33年)

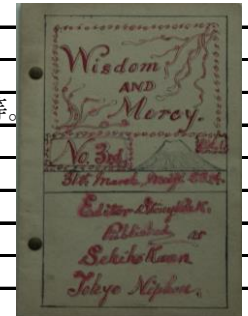
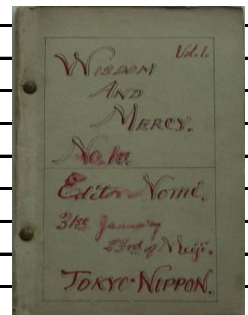
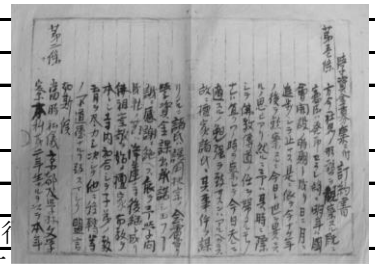
年	月	日	事	項
元	5	18	浄蓮寺12世住職父・法幢、母ユクノの次男として誕生する。	
8	8	16	父法幢師逝去する。父の里である専光寺で7年間養育される。	
10	6	12	広島市寺町町龍寺内の広島小教校(進徳教校)へ入学する。※広島別院の桑門至道師に後見される。	
12	10	21	「得度願」書面伺済の許可書を頂く。	
		28	本山大谷光勝法主より得度(宗徒)の授牒。	
13			広島小教校予科卒業。専光寺へ戻る。	
14	12		養育先の専光寺から浄蓮寺に帰り、養父謙信に伴僧して法務の手伝いをする傍ら漢籍、宗乗を学ぶ。	
15	2	21	21日以降、明治28年まで「真宗時教要授 全」に説教や記録を記す。	
	7		石見学場(明清寺・浄蓮寺)で夏期講習会を受講修学する。	
16	7		石見学場(専光寺)で夏期講習会を受講する。高塚和上師の講和を拝聴し向学心を燃やす。	
17	3		「開悟院述 願成就文聞記 全」を書写する。	
	7	3	石見学場(正楽寺・善徳寺)で夏期講習会を受講する。	
			石見国那賀郡芦谷村善徳寺において、能海寛が「尊号直像名文 本」の書写を行い15日に完成させる。	
	7	23	引き続き「尊号直像銘文 末」の書写を終える。	
18	4	18	※京都西六條に普通教校が開校される。	
	7		石見学場(正万寺)で夏期講習会を受講する。	
	9	14	午後、浄蓮寺を出立。専光寺宿。	
		15	安本若と広島へ同道。広島三丁目、野田マサ方へ宿。	
		16	一丁目、広島教校へ入校する。	
			※高僧和讃、三国傳、通縁起、十八史略などを授業する。	
	12	18	広島教校の試験終る。これをもって、広島教校は閉校となる。	
19	1	19	浄蓮寺へ帰山する。	
		23	京都へ上京のため浄蓮寺を出立。専光寺宿。	
		31	朝、大阪着。12時、京都新町、桑門宅へ到着。※2月中、同家に寄留	
	3	5	京都・普通教校へ入学。東中筋御前道上ル分舎宿。	
		18	普通教校東寮3号室、垣山、蚊野、小池、能海の4名が同室となる。	
	5	29	「反省会有志之会員証」第83号(写真)を取得、反省会へ参加入会する	
	6	11	コレラの流行により、普通教校が閉校となる。	
		12	帰郷するため、大阪港を出航する。	
		18	浄蓮寺へ帰山する。	
	7		吉谷覺寿師より「観心覚無抄」、「因明大疏」などを学ぶ。	
	9	10	普通教校が再開されたため、再び上京する。途中、都志見で一泊する。	
		11	加計から丁川の運河を出発、太田川を下り、広島船着場へ到着。『反省会雑誌』9冊販売。	
		12	夜、広島港から蒸気船へ乗る。	
		14	朝、大阪港つく。京都の桑門宅で一泊する。大阪で『反省会雑誌』3冊販、列車で5冊販売。	
		15	普通教校へ帰校する。	
10	10		「反省会永久会員」となる。	
		23	チベット探検を公言(普通教校西寮)。西寮2号室の親友蚊野仙次郎から「活眼」の激励文を頂く。(写真)	
			※普通教校へ英人セツパード夫妻英語教員として採用される。	
			ボールウィン／和田義軌／手島春治らが英語教師陣。	
11	11		普通教校大行軍(大阪)に参加する。	
		23	「ニュー・ナショナル第3読本」30章までの英文を学習する。	
	12	31	ニューナショナルリーダー翻訳。(写真)	
20	1		小永井小舟に就き「文章軌範虫記」を学ぶ。『令知会雑誌』を購読。	
	3	3	普通教校予科から本科生となる。	
	3		小栗栖香頂より「任倫註」を学ぶ。	
	4	14	普通教校大行軍(奈良・吉野・和歌山・大阪)に参加する。	
	7	13	吹田村の学友直海玄祐宅訪問し、夏期休暇中寄留する。	
			※この間、直海と二人で比叡山へ参詣する。	
	8	11	学友桜井義肇宅訪問。	
		16	午前4時50分起床。5時10分より勤行。大經一卷訓読上巻。朝飯。午後、大經下巻訓読、6時まで観經、小經訓読。後、正信偈など勤行す。摂津下吹田 光徳寺にて、能海寛 ※父の祥月命日のため。	
21	1	7	学業成績／平均点82.5点。英語91.8点。	
			一週間の授業時間29時間の内、英語は14時間。	
			哲学館外員(23年まで)※島地黙雷「日本人」創刊。	
	3		※『国民の友』購読開始。	
	4		『弘法大師一代記』を読み感化を受ける。	
	14		普通教校大行軍。奈良、吉野、和歌山、大阪など。	
	8		※「海外宣教会」が発会する。	



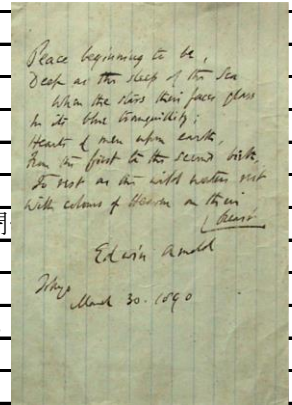
	10	14	校内で「英文会(E. C. S)」を立ち上げ、機関紙『NEW BUDDHIST』(新仏教徒)を創刊する。(写真)
			【会員メンバー】梅田、立花、笠原、宮、島津、植田、吉田、堀、佐田、加藤、北川、荒木、久富、西原、野上、大原、大橋、木村、平尾、楠、服部、山田、池野、加藤、小原、檜山、小池、稗田、村上、川口、吉津、護城、金近、猪口、花房、大内、堀部、新田、品川、桜井、松浦、清谷、岡崎、平山、綿谷、竹下、能海の47名。
			【新仏教徒の目的】「諸君は、仏陀の偉大な愛によって生まれた。全ての衆生と喜びを享受し、真理の樹から因果の果実を摘み取り、モラルの庭園で自ら美味を味わうためにE.C.Sはそのような新仏教徒の目的を成功させるために組織したのだ。」と、能海寛が記述している。
			【英文会の目的】1.翻訳 2.文通 3.月刊雑誌・ニュース 4.文化・教養の団体。(写真)
			※考えを表現することで大切なことは、第一に「書くこと」、第二に「話すこと」である。雄弁さより文章の方が利するところ大である。しゃべる人は、その場かぎりである。著述はどこにでも飛んでゆく。と記述。
			※英文会シンボル印は、「ENGLISH COMPOSING SOCIETY. KYOTO. 」と日の丸。(写真)
		21	「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.2を発行する。
		28	「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.3を発行する。
11	4		「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.4を発行する。
	11		「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.5を発行する。
	18		「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.6を発行する。
	25		「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.7を発行する。
12			※大学林制が發布され普通教校は文学寮となる。
12	2		「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.8を発行する。
	9		「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.9を発行する。
	16		「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.10を発行する。
	23		「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.11を発行する。
	25		大学林の發布により京都普通教校は閉校となる。
	27		普通教校のセッパード夫妻宅を訪問して洋食を頂き、種々話をなす。
22	1	6	「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.13を発行する。
		13	「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.14を発行する。
		20	「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.15を発行する。
		27	「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.16を発行する。
		28	文学寮本科2年甲生へ編入となる。
	2	1	「文学寮在学中豫備金」3円を納める。
		3	「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.17を発行する。
		10	「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.18を発行する。
		17	「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.19を発行する。
		24	「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.20を発行する。
		25	ダルマパーラ京都の病院へ入院中。能海が見舞い・看護する。(写真)
			※看護中にダルマパーラへ英文による機関紙「新仏教徒」運動等を話す。
3	3		「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.21を発行する。
		5	能海寛は、帰郷予定のため5日まで看護、以後は秦、沢井(反省会メンバー)が看護する。
		10	「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.22を発行する。
		11	※大学林文学寮と内学院の紛争が起こる。
		15	午後4時、第一徳山丸にて出航。帰郷の途につく。※学資金欠乏に付、資金援助を依頼の為帰国。
		17	「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.23を発行する。
		24	「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.24を発行する。
		30	英文会員の竹下より英文書簡が届く。
		31	「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.25を発行する。
4	7		「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.26を発行する。
		10	英文会員の平山より英文書簡が届く。
		14	「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.27を発行する。
		15	英文会員の西依より英作文書簡が届く。
		19	葬式、法要での反省会の禁酒について記述する。
		21	「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.28を発行する。(写真)
	5	3	文学寮生の河野始治、島津正人より書簡届く。
		13	英文会員の平山より英文書簡が届く。英文書簡が届く。
		25	英文会員の竹下より英文書簡が届く。
		29	西依金次郎より「英文会の消長は必ず貴慮を患はすならん。然るに無異に消光不在候間休憩い下度候」との書簡が届く。※この書簡をもって、「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」の発行をを中断する。
	6	1	浜田の浄慶寺において「仏説観無量寿経」海老原静寿師の集中講義を聴講する。
	7		石見学場(浄慶寺)で夏期講習会を受講する。
	8		「春秋日記」を書き始める。
	9	4	檀家より270円の学資金援助により「訂約書」(写真)をかわす。学資金のめどが立ち再び上京する。
		14	文学寮北寮6号室に入寮する。同室者(能海、久富、村上、西原、平尾)の5名。



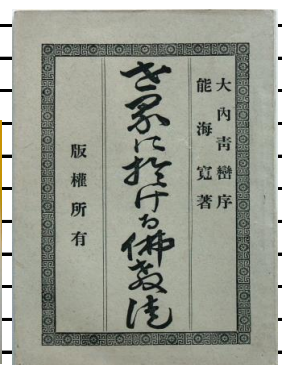
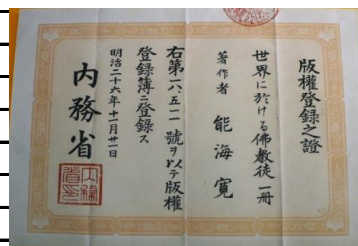
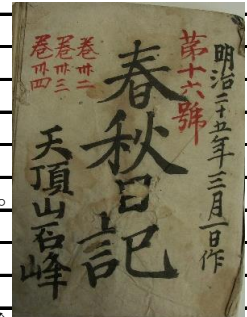
	15	一週間のカリキュラムを日記に記載する。平岡君、井上操来る。藤堂と二人、島庄へ行く。
	17	講堂において宮島舎監の説諭あり。
	21	「反省会」の会幹を投票する。
	26	来る土曜日に英文会で、「アジアの宝珠」、「十二宗綱要」を人を分けて翻訳、日本文へ、又英よりの手紙、新聞等を日本語に訳す。英文会の付属部として、本趣意し英文を解して作文するにあり。
	27	翻訳家、(将来遠国)布教家。自らの進むべき方向を記している。
	28	道法こそ、予の目的なり。晩、笠原、安藤と僕三人で、前途につき思想を述べ互いに得るところあり。
10	1	本山参詣する。「政教日記」と「法の道しば」を斉へ送る。
	3	下宿願いを出す。
	6	斉へ頓智雑誌を送る。藤堂等へ手紙を出す。井上氏の刑法講義あり。
	7	東大学寮で、柳、徳永満之、南條文雄、所感を述べる。
	9	下宿許可が下りて、宝町通り魚棚上ルで下宿。
	10	『反省雑誌』発せらる。藤堂へ手紙、清谷へ葉書出す。兄へ手紙出す。
	12	課業表14日より改正される。
	13	能海の上京により中断していた「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.29を発行。橘等と野間の所へ行く。後に中学へ行き、清谷、寮に入る。学課等を注文。
	14	「英文会」一周年目と「春秋日記」に記す。※「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」の創刊日を表す。
	15	午前11時から勤行の為休み。本山にて下駄を取られて、素足で帰る。龍谷会。
	16	大谷龍谷山報恩講につき休業、午前参詣す。七条を散歩する。
	17	学校へ行き、東山君に面会す。登へ法話を送る。午後2時笠原来り、一緒に校へ行き勤行、齊藤氏の説教を聞く。新聞を読む。伊藤伯の辞職その他条約改正議論ごうごうたり。梅田、笠原と野外に散歩す。知恩院で帝国哲学院演説あり、西依等行く。予は不行。晩、橘本を訪問する。
	18	大経御勤、奥教院の廿日正月なり。午後2時建夜報恩講執行説教、伊井様実に感じ入りたり
	19	朝六時出校、「勤行説教」松島氏。
	20	「NEW BUDDHIST(新仏教徒)」No.30を発行。午前、井上操氏の刑法講義あり。日中、久富とBへ行く。藤島了隠氏欧米より帰朝して初対面、演説あり。
	21	伝道会雑誌17出る。晩、新町辺まで散歩す。
	22	京都での「英文会」を引き継ぐため前田得念と河野始治へ引き継ぎの書簡を送る。来る27日、日曜日を以って「新佛教徒」第31号を出すべし。英和文一部おく。
	23	学校新築の図を見る。橘宅を訪問する。
	27	機関紙『NEW BUDDHIST』No.31(能海が手掛けた最終版)を出す。
12	13	友人の西依一六、松島静寿、能海寛の3人で東京へ上京する。
		芝区三田四国町田中キン方へ松島、山中逸、能海、古河勇の4名が転宿する。
23	1	10 古河勇の文章力に触発され文章・英知が最も必要と感じる。
		11 吉野、桧山来たり。古河勇君を中心に19日に元普通教校生の青年会を立てることを計画。月一度集会をするよう尽力中。
		13 慶應義塾へ双書と履歴書を出す。入社金3円。古河勇と下宿先を探す。
		19 午後1時より築地で松山氏の日本仏教青年会設立へ故普通教校生徒集まる。参会者:今村、古河、弓削、吉野、藤本、富山、橘、小原、良甫、吉住、菊池、能海等。
		23 同志社の創始者・新島襄、療養先の大磯で亡くなる。支那学を学ぶ。
		25 午後3時、芝区三田豊岡町龍源寺越溪宗逸へ転居。西依、山中は神田区へ転宿。
		29 「英文会」月刊機関紙『Wisdom and Mercy』(『智慧と慈悲』)を創刊する。(写真)
2	1	慶應義塾で入学試験を受ける。
	10	学業成就の暁には「佛教大学」(諸宗合同)を設立する構想を「春秋日記」に記す。晩、弓削、古河来たり。「経緯会」のこと種々談し、古河勇も近々来るべく言いし、自炊大いに賛成する。
	15	弓削君来り共に梅原の所へ行き3人で九段の階行社開業式に行く。松島の所で吉野に出逢う。
	19	8時から物理、音読。今日は代理としてウイリアム君来る。日本語が上手い。4時からサー・エドウィン・アーノルド令嬢と共に福沢先生等数名来塾。その時、サー・アーノルドは、我々に空気を分解せば酸素と窒素となる。酸は炭素と化合して炭酸になりて用をなす。窒素、残りたるものは如何なる用をなすぞや。答えれば20円やると言えり。先生に問う。世界の一大問題にして只今では只酸り猛毒を防ぐ為のみと言えり。3時間半休業。演舌堂において長々と氏演舌せり。予等は、Budahien or Christronity 写言の少し知れたるのみ通弁なき為了解せざりし。感じたるは国に英雄出て、世界の光をなす人、生まれば、その国の光栄たること例えば英にワット、ミルトン、セキスピヤー等出て世界を利し既に欧米にフランクリン等の如し。古河勇、予の元に転宿せり。パン食古河に於いてなす。※この時の様子を古河勇が「自炊」と題して寄稿。
	20	学問成就の暁には、仏教大学を設立する構想を持つ。法典300片紙終る。9時からクライブ伝。10時から音読ロイド。11時、漢籍。午後2時、英史。3時、化学。豊島と梅原来る。三田を回遊せり。
	21	「スセントン君英国史」を読む。
	24	W・ウエストンから物理クライブ伝会話。ウエストンと会話を交わす。漢籍。英国史(当る)。
	25	物理クライブ音読(今日は、Frances という宣教師にて前に金の十字をかけ授業せり)。漢籍。午後、豊島の所に一寸寄り、10銭受取る。代数、化学、弓削の所に寄り、化学書を借りる。



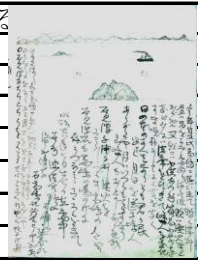
		英作、エドウィンに付き「亜細亜の宝珠」に付き考える。
	26	物理クライブ伝音読(ウエストン君)この時間より火事あり、赤坂124、5戸焼ける。「漢書王命論」甚だよし。英国史、化学(当る)。
	27	物理クライブ音読。漢書にてありき。代数、化学の授業を受ける。
	28	W・ウエストンから物理クライブ伝音読。英国ダービーシャー県の英字新聞を持ち来て、授業する。
		『Wisdom and Mercy』No.2ndを書く。
3	1	『第5号 春秋の日記』を書き始める。5月31日まで。
	2	西依宅訪問、マコーリーのエッセイを購入希望67銭。英歴史、天文学、フランスガイドブックなど購入44銭。購入本の予定「アジアの光」。
	4	Mr.Weston来る。雑誌「ユニテリアン」No.1を読む。
	7	沢井洵(後の高楠順次郎)と会う。
	8	古河勇の「無維持学院」を訪問する。
	10	沢井洵フランス船で欧州へ出発する。
	22	E.アーノルド卿を訪問するも来客の為、明日、午後3時に改めて訪問を約す。
	23	麻布赤坂今井町41番地のE・アーノルド卿の自宅を訪問し英文の添削を受ける。来日時の横浜、鎌倉の様子、『英文雑誌』や4月にアーノルドが京都に行く事を聞※(アーノルドへ吉谷覚寿師から宗教学を享受したことを話す。)
	25	古河勇の勤める明治学院で開催された文学会へ行き、講演や音楽を聞く。
	30	2回目訪問で、アーノルドから直筆(写真)英詩を戴く。アーノルド宅周辺をスケッチ。英詩訳 ○諸悪莫作衆善奉行自浄吾意是諸佛教 Edwin Arnold
	31	『Wisdom and Mercy』No.3rdを書く。
		Wisdom and Mercy『智恵と慈悲』。智恵には、「世智」と「出世智」の二種ある。
		英文会員:平山、竹下、綿谷、垣山、清谷、梅田、笠原、橘、宮、川口、堀、上田、荒木、後藤、佐治、吉田、加藤、島津、久富、橋本、能海。凡て慶應義塾4級生を以て組織する。
4	16	『Wisdom and Mercy』No.4。「宗教革命論」中西牛郎著を論説。「二河白道の比喻」英訳の取組みなど。
5	1	『Wisdom and Mercy』No.5を発行する。
		仏典翻訳を指導する学校を造りたいと考える。普通学、仏教、因果を否定するものではない。
6	1	三田寺町の西蓮寺(白山謙致)へ転宿する。同宿の白山謙致、子安善義は慶應義塾からの親友。
		『Wisdom and Mercy』No.6 No.7『第6号 春秋日録』を書き始める。9月30日まで。
		『Wisdom and Mercy』No.6。※常陸の国稲田郷を訪ねる書き旅行紀など。
7	15	「満もぼろし」の記録帳を購入する。この時、芝区三田西蓮寺所持主能海寛と記す。
		旅行に付入費払、麦帽50銭、メリヤス40銭、カバン70銭、手帳15銭、 ペ 1円75銭。
	20	晩、三田にて草履(6銭)、レモン油(5銭)、砂糖(2銭)、晩8時より臥眠する。
	21	朝、5時10分起床。30分出発。小山、増上寺の北側、露月町にてミルの自由論(45銭)、銀座、京橋を経て深川に渡り、千葉へ至る。※東京東北紀行(銚子、板敷山、稲田の郷、日光など)
	22	午前5時30分発足。5里の山道を通り、佐倉の郷に出る。成田山を経て飯田屋に投宿する。不動尊参詣。
	23	再び不動尊に参詣する。滑川を経て高岡村に休憩する。築波山を遥かに望み、遂に佐原町に着く。銚子へ下る川汽船、銚子丸に乗込む。汽船の甲板にて尺八を吹く。11時銚子港へ着く。宿に投宿す。
8	3	高崎に着く。浅間山を見て、赤羽に着く。4時、目黒停車場、5時、西蓮寺に着す。
9	26	仏書を英語に訳すこと。海外布教すること。
10	14	『Wisdm and Mercy』No. I を書く。 ※創刊3年とE.C.Sの将来を記述。
	19	清祥寺において仏教講演会が行われた。講演者は、大内精論、大内青巒、異青次郎、佐治実然。「比較宗教の有用点」、「ユニテリアン宗教」など。
	25	慶應義塾において「土曜会」を組織した。会員数約30名各宗派の僧侶が集まり、運動、スピーチ、作文等行う。
11	5	「英語夜学会」へ入会する。入会金1円。授業料1円。校費10銭。
	12	※「普通教校人士」か印刷・発行される。
	14	飯倉通りの英語夜学会に行き、「ロビンソンクルーソ」の講義を受けた。『Wisdm and Mercy』No. II を書く。
12	14	『Wisdm and Mercy』No. III を書く。※『水交社記事』購読開始。
12		「僧侶としての勉強の証が必要」という檀家の切望により慶應義塾を退学する。
24	1	4 今日、「真像銘文」終る。昨年、「法典漢文の部」を読みしは、御勤めのかわり仏学の為。又初巻読みたれども外に漢文を読むの熟練習の為も幾分あり。他に「和文章」を書く練習の為も幾分かある。
	5	本郷の山中逸君を訪問する。共に藤堂哲へ行く。渋谷君来り人物論を議論す。夜、藤堂で宿す。
	6	山中と共に下宿家を探す。駒込を回り、追分町哲学館に約束し芝宅へ帰る。白山氏を訪問し本田に逢い移転を知らず。午後4時頃より荷物を仕舞し、5時に芝三田を発って本郷に7時着す。
	7	郷里の父・兄へ書面、専光寺、最勝寺、桑門至道、日本新聞社へ葉書を出す。藤堂、山中を訪問するもいずれも風邪。予も北向きの室なる為と強風の為にて軽風邪をひく。
	11	午後、藤堂哲を訪問する。古河勇、秦千代丸君に逢い談する。
	15	午前、哲学館に至り入館金月謝を収む。午後、藤堂、山中を訪問。山中は脚気で足立たずという。日本新聞社へ葉書出す。未灯抄終る。
	16	午後、哲学館の授業を受ける。井上哲二郎、沢柳の両氏なり。
	22	予が経歴に付き考える処ありたり。南條文雄氏の特言学講義を聞く。「執特抄」終る。帰国の念交々至る。



	23	「願々抄」、「最要抄」、「本願抄」を読み終える。2時間授業。晩、藤堂を訪問し反省会雑誌を読む。
	25	クルーソー傳終る。斉より書面を受ける。学問方針のことあり。哀れむべし、妹のすえ13日に死亡せりとのこと。「嗚呼なんと悲しく哀れ、果かなきものぞ。南無阿弥陀佛この報の悲しみいわんことなし。言語の述べつくす能はず」と「春秋日記」に記す。藤堂、秦君来遊せり。囲碁をする。
	26	午前、山中逸を訪問する。入学証を哲学館へ出す。手控録を作る。新化学1時間受ける。
2	6	授業3時間。井上哲二郎の講義。
	7	人類学ありたるも知らずたる欠席す。1時間授業を受ける。夜、秦君来遊。「無聞書」一部終る。
	8	「仏教話論」法経。昼過ぎ本郷、下谷、神田、麹町、牛込、小石川を散歩する。反省会へ書面。「真要抄」始める。本の方終る。
	13	授業3時間。井上哲二郎の講義。入湯。すえ初月忌に当り読経する。晩、山中逸来談。
	14	昨日「本懐集」終る。今「破邪顯正抄」始める。授業3時間。夕、山中逸を訪問。
	16	親の命日。業2時より1時間訳。晩、桑門に至る。寮を訪うも留守。蕎麦をランプにて食う。
	17	業なく1は欠席す。「破邪顯正抄」終る。兄へ書面出す。山中逸より葉書着く。
4	12	小金井小舟氏を訪問する。
6	7	津田村専龍寺にて開講の「大経和讃聞講記」を記述する。
7	1	哲学館普通科を修了する。
8		東京西南紀行(7/22~8/18)南房総を経て身延山、富士山へ登頂する。
9	13	「国民の友」33号。夕、為替着く。有難し候。2時過ぎに至るまで眠りにつけず。
	15	「経世新報」の購読を始める。哲学館へ行き講義録を選び帰る。藤堂へ葉書を出す。
	22	井上哲次郎講義始まる。秦君来遊せり。
	27	「東京西南近県紀行」を書き終える。
10	6	哲学研究会(第150号)第一期会員となる。
25	3	17 24年の英文を読み返し、目的の英文に冷担なるを知る。来月8日に『英文雑誌』を企画。
	18	麹町行き。英文会について考え夜床につくも眠られぬ。
	19	俵・木村・大野君を訪ねるも留守。「英文会」のことひと時も忘れる事なし。桑門来遊、高見へ行く。
	20	大野・桑門・予と3人で神田を回り、三省堂で英文印刷を依頼するも撥ね付けられ落胆。
		※23年から取り組んだ「二河白道の比喻」?の英文訳を三省堂で印刷を依頼するも断られる。
	22	麹町行き。白山君に「英文会」のことを相談し賛成を得る。南條文雄氏へ葉書を出す。地学会へ行く。
	23	篠原君の調べで、出版条例を聞く。秦君に英文会のことを話すも賛意を得られず落胆。
		今日、宣教会、文学寮、内学院大学寮、高中、尋中へ「英文会」の件で書面を出す。
		4月8日に、「新仏教徒」が誕生することを祈る。※釈迦の降誕日に合わせたいと希望した。
	24	頭痛で困る。授業3時間で早引きする。一粒金丹を4年ぶりに吞む。
	25	今日は、スッキリ病いよし。麹町に行き白山謙致、子安善義君にも話す。南條先生は名古屋へ出発。
	26	藤堂より書面、荷物着く。井上円了先生に相談するも金の為に付き危ぶむ。秦、岩田君来遊。
4	8	「釈尊降誕会」が慶応義塾演説館で行われる。
7	1	哲学館高等科下級を修了する。
8	3	谷中を発して、1時に通運丸に乗船、5時に横須賀着港。大野君在宿の石川喜三郎に6時着。知人の楨沢要塞歩兵軍曹に面会し、市中で芝居2幕見る。※東京南東紀行(伊豆七島めぐり)に出かける。
	4	大野君と軍港近方を散歩、軍艦の停泊を見る。「日蓮宗祖真実略伝」を読む。
	5	鈴木、清谷、山中、菅、麹町へ葉書出す。8里半の日蓮宗の旧跡を尋ねる。
	8	楠浦近方を散歩する。海水浴は、日課、去年房州にて覚え毎日の水練で上達せり。
	26	朝、谷中の無道庵に帰着せり。この日、谷中の諏訪神社の祭礼あり。
9	13	「東京南東紀行」を書き上げる。
	21	「応用心理学」井上円了氏を受講。
10	5	「支那学莊子論」島田均一氏を受講。
	14	「宋学」島田博士を受講。
26	1	12 「人類学大意」坪井正五郎氏を受講。
	19	「人類学大意」坪井正五郎氏を受講。
	2	2 「人類学大意」坪井正五郎氏を受講。
	4	「純正哲学自解」を聴講。
	8	「動義学」を聴講。
	18	「宗教学」を聴講。
5	12	「妖怪学」井上円了氏を受講。
	7	7 哲学館高等科上級を修了する。
	20	朝、駒込の峯岸を出て、森岡で写真を撮る。湯島に行き、松谷、菊池、大橋、村上、古河、西依等に会い、松山来り、蔵行きなど語る。午後1時に品川の平松を訪問。4時に横浜を回遊し、7時に鎌倉へ着く。
	21	雲頂院へ行き、田中明林などに逢い講を聞く。佛日庵に行き高見に会う。富士見亭、白鹿洞、などを回り3人で会食す。別れて、建長寺、半僧坊、閻魔堂、女岩、大仏などを見る。
		夜は、秦、三宅、松見、瀧口等と懇談。晩、秦君来語。※大内青巒と鎌倉会場で「西藏探検の必要」を発表。
	26	朝、寺にて小山、加藤の講話。10時発、橘、原、予の3人で山田に行く。外宮、内宮に参る。
		二人に別れて、車にて8時に二見に着く。※二見会場でも「西藏探検の必要」を発表する。
8	7	浄蓮寺へ帰山する。※大内青巒氏よりの書簡に仏教青年会からの礼状が同封される。



	11	21	内務省より、自著の『世界に於ける仏教徒』の「版權登録之証」(写真)を取得する。
	12	21	仏教青年会の席上で、古河勇氏が、能海寛著『世界に於ける佛教徒』(写真)の出版披露を行なう。
27	1	3	チベット探検に赴くために自らの考えを「口代」(遺書)に14項目を書き置く。年始筆末の開封す。
		27	本山へ為替を出す。晩、西藏行を兄、父に相談する。
	2	27	剪髪を一掴み和紙に包み「口代」に添え置き、万一帰国出来ない場合は遺髪とし葬送の旨を書き留める。
	7		西藏探検の支援を受ける為に京都へ上京。京都東中筋花屋街下ル片山方へ寄留する。
			本願寺役員の桑門至道を介して、本山に西藏派遣僧としての上申を働きかける。
	7	25	日清戦争勃発により寛の西藏探検行が頓挫する。
	9		一旦、帰国して再起をきすこととする。
28	7	13	波佐天頂山(浄蓮寺)を発足。三隅正楽寺「安居法会」へ演説に行く。
		14	日中まで正楽寺に滞在する。
		15	古湊に出て、角の部屋にて高島への渡船を問い合わせる。
		19	高島へ渡る為に古湊を訪問するも明日に船便があると聞き、正東寺岩本氏と同道し、
		20	荷物(書籍、カヤ、毛トンボ)及び弁当を下女に持たせ、午後6時発、古湊に一宿。酒2升みやげに持参。
		21	朝7時、出舟11時頃高嶋へ着。表屋島内多十郎口に宅す。二階造り、上間6畳、下の間同上、ウシロ
			4畳半、2間に庭あり。高き地、眼下に海及び沖本地を見下す。家内11人一老夫婦80より90也。
		22	午後、子供を集め体操を教ゆ、又島内を散歩す。戸数7軒。皆一か所。表屋の外は皆小屋也。
10	6		広島県山県郡山廻村大字高野へ報恩講で巡回。当村は秋祭り。
		7	大谷郷に出て、早吉宅へ投宿。大谷戸数14、5戸。政府直轄の鉄穴を洗い、鉦吹きは月給で働く。
			5年ぶりに鉄穴を洗い、月に4、5回鉦吹きが行われる。鉦関係就業者は、24、5戸。鉄穴1洗いで5年分
			十分。月に3、4回洗う。鉄穴人50人。川筋10里の間の各村へ407石、3000円の資金也。
29	2	28	午後9時半、浄蓮寺を出発、雄鹿原・麦生家で一泊する。この夜、麦生で新年宴会、3時臥寝。
	3	1	松原を経て加計町へ午後4時に到着、加計で一泊する。
		22	三伽会(白山謙致、子安善義、能海寛)(写真)で三河屋へ行く。経費35銭。
		27	尺八の師範を取得する。12銭。
	4	6	「予の四月六日」という寄稿文に。※この日の一日の出来事を詳細に記している。
		8	三士会(大場、子安、能海)に行く。
		10	「予の四月六日」という寄稿文を反省会雑誌に投稿した。
	5	3	仏教青年会費10銭を納める。
		7	本山執事渥美契縁宛に西藏探検派遣僧の「上申嘆願書」を提出する。
	6	7	経緯会の例会。会費20銭を納める。
		8	和歌三首(社会黨・処世・遁世)を詠む
		9	各宗派寺院数の統計を書く。20,675寺
	7	11	経緯会の例会。会費5銭を納める。
	8	6	反省会雑誌社の編集主任桜井義肇より、25日発行の「誌上」に西藏に関する一文を能海に依頼する。
	9	13	経緯会の例会。会費10銭を納める。
10	4		新橋から汽車に乗り帰郷する。
12	2		郷里を出立する。風雨・霰降る。岡原の田中屋、麦生、上田、妙蓮寺へ立寄り、松原の金崎で一泊。
	3		2箇所で報恩講を済ませ、加計で一泊する。
	4		加計辺り一面真っ白の降雪。舟中では降雪のため困難をきたす。可部あたりから天気。午後4時半、
			広島橋平へ到着。6丁目の御坊行き、買物で汽車に乗遅れ、駅前の宿で一泊する。
	5		早朝一番の汽車6時20分に乗り、加古川で下り、麦生富郎君の所まで六里も歩くことは不便であり、
			神戸に至り、登、初、富郎君まで私の来るのを待っていた。4人で料理屋へ行き、夜2時まで話す。
	6		三人で神戸市内を見学する。妹へ着物代として3円送ることを約束する。
	7		朝、8時神戸発、大阪にて上田の荷物を八尾中学校へ届ける。夜7時半、京都に着く。水野に面会する。
	8		朝、本山参詣。桑門氏訪問近状を聞く。午後、教界時言社へ里見君を訪問し意見を聞く。
	12		経緯会の会合。会費20銭を納める。※『教界時言』購読。
30	1	1	6時起床。麦生より書留、桜井義肇より葉書着く。岡本、善徳寺、正万寺、最勝寺、
			麦生、深井、秋津、桑門、子安諸氏へ年始葉書出す。七里君、白山君来談。
		2	5時起床。午前9時出宅、北条を訪い本郷西依に至り京行きを送る。本山政論を談し教界時言社に伝言す。
			井上円了氏へ年始行。反省会へ年始行。白山へ行く。※『佛教』購読。
		13	枳附書(改三)書込み10枚。昨日より「世界に於ける仏教徒」第二編著作の精神を發し大に計画す。
			桜井義肇来訪。『反省雑誌』(欧文)出来寄贈せらる。浄蓮寺寺史起稿の念を起し大に計画す。
		14	枳書出(改四)書込み6枚。「世界に於ける仏教徒」の稿を起し第一章宗教革命の氣運至れりを草す。
			西依、京都より葉書送る。昨夜降雪、今朝6寸積る。
		24	午前、寺史完結。午後、弥生館・経緯会へ行く。北条太洋の処に寄り、本田、小林、境地、予と五人で。
			大会食。明清寺より書面着く。東光(朝鮮)よりはがき着く。
		30	孝明天皇30年祭阿弥陀経誦誦。梵文大經始める。先生直講。安本、麦生来訪。入浴中、高楠、奏来訪。
			南條先生と共に4人宝洋食亭に行き種々の談話を聞く。
		31	朝鮮京城本願寺別院東光憲雄へはがき出す。大和国高市郡今井町御堂筋西、藤堂哲へはがき出す。
			芝区愛宕町二丁目13番、伝染病研究所へ書面出す。午後4時。三省堂主人亀井来訪。
	2	4	芝区病院よりはがき着く。反省会よりはがき着く。村上氏、大学生四人、来訪。古田君来訪。
			中河内、政一、水野、明清寺、反省会、以上五通のはがきを出す。



		大経梵講1時間、第2回。西依へはがき。「ツランクハバ」の傳訳を始める。
	5	郵便局行。「梵大経」第3回、1時間三項まで。キフ3枚。入湯。白山へ葉書出す。
	6	キフ3枚。白山よりはがき着く。三省堂より英和辞書を呉れる。「梵大経」第四回。
	7	午前、白山来り「ラリタ」来客の為なし。午後、上野・顕松亭に高楠順次郎の帰国歓迎会あり、35～6人写真撮る。白山同道往復。
	15	キフ2枚。好天。南條先生京都へ出発。谷了然来訪。本日、白川7人を罰す。北条来訪。晚北条に行く。
	20	キフ5枚。朝、地震五分余間ゆれる。「大英」二項写す。晚、北条太洋の処に行き語話。
	21	キフ5枚。長々の「枳橘易土集」も、ようよう本日を以て千秋楽を告ぐ。午後、榎本館に高楠訪問
		反省会のこと蔵行のことなどを談す。反省会へ行長談快。
	22	旭野外一人来る。桜井義肇来る。暗黒本願寺論を読む。且つ批評す。
	27	大経写本少々。午前、白山来、南條先生風邪只語話のみ。半鐘門まで白山を送る。越中の上田某来り、水野へはがき出す。政一よりはがき着く。越中の上田某来り、改革の中傷説1時間半説く。
		古田来る。夜、先生に字書及梵学に付忠告然たる恐見を申し上げる。
	28	昨夜、清谷よりはがき着く。今朝日本橋よりはがき着く。北条を今朝訪う。
3	1	大経講第8回一双十二迄。北条来談。大学生4人来訪。おそく迄種々話しあり。
	7	反省会へはがき出す。芝弥生館へ印度飢饉救助会に臨み、銀座三橋亭へ北条、古田、予の3人行く。
	8	大経12回。赤松来る。雨。反省会へ書面出す。
	9	大経136回八十八双済む。剃髪及び湯へ行く。降雨。北条太洋へ行く。
	17	彼岸の入り。晚、北条太洋行、菊池謙譲来る。宇都宮紹介状貰う。大経第17回。
	18	大経第18回。東洋哲学会よりはがき。済生よりはがき。経緯会よりはがき。
	24	石川舜台氏来訪。大□来る。深井隆三郎より書面。渡辺より書面着く。
	25	先生に経緯会のこと社会常人の事等から、本山施政等を申し述べる。赤坂宇都宮の処、政一より又未本代議士等へ行く。閉院式あり。渡辺、荻原へはがき、深井隆三郎へ書面、白山へはがき出す。
	26	先生出立のはずが病にて延引となる。石川舜台より、京都行き同道、明日へ延引を申して来る。
	27	雨。石川の宿林屋に行く。先生病の為延引。晚、北条来語せり。
	28	強雨。経緯会をはがき着く。本日、弥生館に改革に付会見も不出席。
	31	本月書出しは名集全インデックス9頁のみ。外に大経和訳写51枚。先生本朝出立
		詠帰舎へ行。湯行。晚、北条太洋訪問改革語等を聞く。
4	8	午前、傳中行き羽織とりに行く。支那語行き休む。午後、「降誕会」(写真)へ行く、
		南條文雄、島地黙雷、大内青巒、村上専精など。会費20銭。夜七時散会。
	12	荻原雲来来館。書出し。経緯会よりはがき着く。
5	9	午前、午後、西藏学前に「予と西藏」記事をなす。晚、「西藏大蔵経目録概要」を訳出。
	10	反省会へ「西藏国大蔵目録」原稿送る。
	12	能海寛著「宗教学の必要」が『東洋哲学』第4編3号に掲載。
	15	風狂。午後、経緯会を反省会にて開き行く。会費10銭納める。来者17、8名。月見、伊吹来る。
	16	午前、東洋哲学会に行き、井上哲二郎の蔵学の話あり。午後、青年会大会行き、会場設立議決せり。
6	6	午後、安本、玉泉、同道し上田の所に至り、松本居にてBにて分かれ、古田を訪ね、非宗教学など
		七時迄話し、大雨を犯しめ三番町菊池に寄り、経団会例会に付き話し、9時半帰宅。
	12	午後、湯島麟禅院へ行く。経緯会例会(積金1円・会費20銭)、田上追弔会、北条太洋送別行。
		※北条太洋アメリカへ渡航に付、経緯会の送別会・能海が幹事を務める。
	15	北条太洋来訪せり。
	16	午前、大経(疑儀胎官五智の章終わる)。降雨。南條先生名古屋、京都に向けて出立。
	17	朝、北条太洋に立寄り上野図書館行。午前雨、午後晴れる。東洋哲学会より葉書着く。
	18	午前七時発、北条太洋把刺、西爾国行き送別の為、新橋へ行き、8時15分、汽車に同乗し、横浜着
		直ぐ郵船会社陸上にて一休同社の小汽船にて、インプレスフチャイナ号に至り百廿八号室乗り込み、
		船内一見して、11時半帰り中食して、山手海岸通り散歩とき、同船、正午12時発船行を見認めたり。
	23	午前、西依来訪同道三番町丁西社に行く。三時過帰る。東洋学についての一文雑録を書く。
		夜九時より降雨。夜、高楠順次郎来り、スタを貸す。河口慧海、西藏に向う。
	24	「西藏文典」の訳を始める。午後、渡辺海旭来訪、西藏話をなす。夜、宝亭に子安君と行く。降雨強し。
7	4	広内より書面着く。京へ電打ち問い合わせ。午後、経緯会例会を白蓮社にて開く(積金20銭・会費5銭)。
		会者11人。夕方、古田、子安、予、3人宝亭九段寄席小清布引継、10時帰宅大いに懺悔す。
	15	能海寛著「西藏国初伝釈尊入滅考異説」『仏教』第128号で掲載。
	17	菊池君支那・朝鮮行きのため新橋迄見送る。政一を訪ねる。晴天。
	27	虫干し五。西依よりはがき。晚、丁茜社行柏原、西依、大円あり。27日不動を巡り帰る。
		「垂細垂言語集」第三卷問答編を始める。
	28	虫干し6。太平洋社へ「西藏国問題」原稿送る。「垂細垂言」第二卷は後に回す。
	29	虫干し7。仏教学会へ原稿送る。23日より昨日迄満足の晴天。本日夕方少雨。
	30	虫干し8甲。斉藤来る、上田来る。降雨。詠帰舎、今日限りにて夏休業とせり。
8	4	前11時先生外2人帰宅来宅。午後白蓮社まで経緯会大いに舎是に付き議論す(会費8銭)。
		椀退会を申出ず。90余度大熱。哲学館報告来る。93度。
	5	経緯会・会是及び会員誓約書、並びに其説明書を作る。
	6	天祐丸の記事あり。佐官来る。降雨少々。虫干し12。北条太洋ロンドンを出発す。



		11	虫干し13甲。梅田定君来る。本郷に行き梅田同道。反省会に寄り帰る。93度。
		16	白蓬社に行、経緯会の例会場を頼む。父君23回の祥月命日と成る。
		19	午前、経緯会々々委員会、渡辺、西依、境地、梅田、予5人。午後、白蓬社にて会議臨時会、
			会者八人。会員を定む。大いに議論あり。会費23銭。
		20	午後『東洋の低気圧』文及『ツランクババの異伝』二文を綴る東洋哲学会に送る。
		21	朝より本郷森川町梅田、西依訪問。小石川植物園へ行く。父より書面着く。
		23	梅田、午後來訪、桜田門に御還御を奉迎。夫より永代橋散歩、高楠を訪問、普通の旧暦を語聞しめ
			九時半帰る。波佐地図製す経緯編。佐田帰る。
		25	西依来語。大いに宗教学、経緯会、会是に付き論じ、共に丁酉社に行く。「十鐵批判」を書き仏教へ送る。
		27	午前、西藏図を写す。午後本郷西依、梅田訪問議論、傳中へ行き齊藤の談話を聞き、境地に寄り
			安藤に共に行快語密談。10時過ぎ帰る。高楠順次郎より手紙来り少しく不平の志起る。
		30	午後4時より駒込真浄寺に経緯「仏教」会あり原セイミン、尺セイトン外知人6、7人、高嶋を訪い田中
			に訪い夫より西依へ行き、桜井、安藤、渡辺、桜田等会の退会を本日処分を決議し、10時半帰宅する。
9	5		降雨。午後、経緯会者5名で甚だ不振。会費20銭。夜、先生一行帰宅。
		13	□□一週年忌。傳中に行き安藤、桜井、西依に寄る。夜10時帰宅。晴天少々雨。
		22	午前、麴局に行き、今朝着の龍作よりの為替受取又、本郷局に行く。同為替受取り買物して
			西依に行き途中、境野に逢い西依と三人、上野高楠順次郎に寄り6時半帰宅。又上田にも寄る。
		23	11時発浅草本山にて石川舜台氏に面会蔵行の約、梵書出版の約、支那開教約、及社界問題等を
			話す。高楠を訪い「梵学会」設立を話し互いに考え□ことにせり。古田を訪い茶道等会語。夜9時に帰る。
		24	大強雨。引籠り。夕方買物に神田行、富士平にて小政を聞く十種番、10時帰る。
		25	午前5時発。六時新橋発。汽車不通に付横浜にて朝顔丸1,525トン57号に乗る。正午発、伊豆崎夜。
10	7		朝5時浜田着。大湯屋へ行き、春谷がおり大快語、散歩して宿へ。
		8	有福行。入湯。晩宿にて説教。宿す。
		9	午後1時発足。晩7時、波佐帰着す。未帰前処着落手。
		14	安藤弘より書簡、「西依一六から(経緯会)退会届が郵送されたことを知らせ、寛が不在で会も寂しき」
12	18		大阪及び南條氏へ書面、神戸、藤堂、美濃子安、古川へはがき出す。午後、三時出發。戸河内に止宿す。
		22	午前は買物に回り、午後4時三ノ宮発五時梅田へ着。直ちに、江戸堀南通四丁目二十番本田治七方へ
			行き晩、縁日へ散歩し帰って寝る。静(子)に面す夜来床。
		23	午前九時過、梅田発11時京都着。下珠数池田に止宿。東山を(静子と)共に散歩する。梅原を訪問する。
		24	午前、石川舜台氏を訪うも留守。午後、梅田、菅を訪問。二条辺迄行く。京極にて牡蠣飯、東山行く。
			正木を訪う共に宿に帰り大に語し。又正木来る。
		26	午前8時15分発、午後3時19分処、四時新橋着。(静子と)共に車を雇いて南北に分かれる。
			南氏方報恩講。白山、古田、中島に逢う。
		27	午前十時半発し、牛込小石川を経て松田を訪ねる。境野を訪い大いに談す。
			安藤、桜井、西依を訪問して帰る。夜、中島を訪う。
【経緯同盟会メンバー】 1. 北條太洋、2. 正木新、3. 杵村廣太郎、4. 海野詮教、5. 境野哲海、6. 西依一六、			
7. 田上為吉、8. 菊池謙讓、9. 小林正盛、10. 月見寛了、11. 渡辺海旭、12. 山口力磨、13. 柏原文太郎、			
14. 古河勇、15. 大久保格道、16. 葦原雅亮、17. 伊沢道暉、18. 吉田友吉、19. 本多澄雲、20. 梶宝順、			
21. 花田凌雲、22. 梅原融、23. 桜井義肇、24. 菅学応、25. 清川円誠、26. 能海寛、27. 田嶋擔、28. 金義鑑、			
29. 中島裁之、30. 木山定生、31. 菅眞海、32. 妻木直良、33. 佐々木恵璋、34. 梅田謙敬、35. 旭野慧憲、			
36. 重田友助、37. 鈴木貞太郎、38. 高楠順次郎、39. 古田復之、40. 安藤弘。号外。大宮孝潤。			
※会員は番号制で、寄稿された記事は、番号で表示。この内の11名が海外で活躍中。(能海寛資料)			
31	1	6	実業学校創立諸入費豫算書、実業学校経常費豫算書、を記す。
			「朝鮮国全羅道光州に設立すべき実業学校創立費並経常費御補助金御下附願」30. 12. 25付
			真宗大谷派本願寺代表者南條文雄、外務大臣西徳二郎宛、本日をも以て開催となる。
		2	15 天頂山(能海寛)著「苦楽逆練」を『仏教』第135号へ掲載。
		3	4 西依送別会を開く。会費1円。
			5 経緯会の例会、会費5銭。
		4	17 経緯会の例会、会費10銭。
		5	4 6時発、10時乗船。午後5時出帆、帰郷の途につく。
			5 5時、御前崎夜明け。午後5時、四日市着。8時迄停車場に待ち吉岡に投宿。神戸に葉書出す。
		6	7時半発、11時、草津着。子安へ葉書を書き出す。2時着京。春日学寮を訪ねるも留守。桑門も留守。
			梅田を訪問し桜井義肇に逢い東寺へ行く。梅原に逢って菅学応に面し学応に分かれて鳥羽亭に4人で会食。
			帰りに、春日を訪ね共に宿に帰り談話する。
		7	朝、本山両堂参詣。直ちに、渥美、桜井を訪ねる。留守と病中なり。8時より五条から京極まで散歩する。
	6	29	郷里で、佐々木静子と結婚式を挙げる。
	10	4	半晴天。6時晨起。勤行終り、8時出發。数10名見送。浄蓮寺を出發。馬の原虎若にて、春谷氏、
			志津、寺田、尻の切等々に分かれ、11時麦生着。妙蓮寺(4)に立寄り橋山を経て、杉原、金崎に立寄り、
			弁当して3時発、6時半加計香川着。年回に付き、隣家に宿す。静へ私書。行程8里。※西藏へ出發する。
		6	晴天。朝4時59分、神戸着。車にて江谷へ回って登の新宅へ6時半着。中森隠見へ葉書。
			午後1時2分、三の宮発3時20分京着。47哩。下珠数池田屋方投宿。夕方、水野来訪。入浴。
			新佛、御願等金相渡済。夜菅君を訪問し、8時半帰宅。就寝。

		7	晨朝、本山参詣。両堂拝礼。朝、石川氏留守宅を訪問。9時、本山出願。出京届を出す。 「今回西藏国探検の目的を以て、清国へ渡航内定」通知を本山へ差出す。
			太田祐慶氏に面談。数日の内、3手続を致すに由りて、東上可致旨談話。外務省へ 機密より成田安輝探蔵の計画ある由。午睡、入浴。南條氏へ葉書を出す。本山へ へ招状を返戻す。午后、菅君、水野、淀淵来訪。菅君と囲碁。晩食を終へ京極、四条辺へ散歩。
		9	好天。本山参。午前、太田祐慶を訪り語話せずして帰る。菅君来訪。昼食を共にして共に午后、 二条、川上貞信氏を訪問。西藏談。非常に盛んにして甚だ快。二条より汽車で七条に5時帰る。
		11	好天。朝、西本山参詣。大橋敏君に面会。大学林に大久保、及紀開蔵両君を訪問せり。 「西域記」を読む。内務大臣付石川舜台、監獄布教宣教師問題、文部大臣、民主 同間、新紙上八ヶ間敷、本山寺務所に行、石川帰山。太田に面談す。東京行やめ。
		12	石川舜台師に面談、上海行に決す。寺務所で太田に逢い、寄留の事を話す。松見録事に逢う。 今日、皇太子殿下京都行幸奉迎、東西並に各宗派管長玄関前に奉迎せり。此夜、 西藏国探検に付、見込書を認め、凡4枚かく。家兄及静宛書、書認め夜10時半寝る。
		13	本山参。家兄宛書面出す。近況を報す。静へも同封。「西藏探検見込書」第1目的、第2通路、 第3西藏、第4言語、第5年限、第6費目(及追加)、履歴を編纂せり。
		15	西藏達頼喇嘛教主獅あて親書を大谷法主が書きあげる。
		21	岡本より葉書着す。好天。本山参る。意見書清書す。夕方、東寺へ参り、灯明をあげ、叉石をさすり、 両足をなげ、「南無大師遍正金剛」を称へ、「三誓偈」を勤め、西藏行の安全を祈る。
		22	本山行休業。太田も不在。和田君を訪問。長く談話し、旅券の事を聞き、直ちに役場へ原籍之 証明、戸主の承諾の為、父の方へ願書と二本手紙を出し、新聞も出す。本日は時代祭りなり。 午後、御所、仏光寺等へ参る。夜、覺泉寺を訪ひ、談話してかえる。三好香山より葉書着。石川 舜台を罰せざるに決し、不当と認めずの返書。内務へ出さるる報を得る。
		23	本山参。石川を訪問。『世界に於ける仏教徒』及(12枚半あり)寺務改正の為献白「議案」を渡す。 一々見て受領せり。夫より、入蔵の難、至急取運びの事。旅券東上等の事を談話せり。一時間 斗り話してかへる。午後、覺泉寺来訪。新聞及教学報知を国へ送る。又葉書を国元へ出す。
11		1	「波佐教会案」、「東京仏教会堂案」を稿す。終日在宅。
		6	神戸を経て静書面着。朝、饒徑丸を訪ひ、和田君来り、共に太田に行。東行決し、東行旅費受取。 本山にて一寸語話してかへる。午後、北方を訪ふ。干時桑門至道氏に面し、室に至り改革談大に すすみ、4時過ぎに至る。夜8時8分、七条停車場発。東上、夜行。
		7	午前11時半、新橋着。直に麹町南師邸に行。午後、語話に消光。夜、九段に行く。
		8	午前、外務省出頭。二橋氏に面語。蔵行之事政府外務省の意傾を聞き、特別保護の話をなす。 午後、本郷行、斉藤竜作、松田光道を訪問。帰途反省会、日華学堂により高楠、秦、桜井に面し、 夫より安藤君宅による。不在、帰宅。西藏の経文を得る事。個用を得る事。阿含經、露国2千万 弗を払ふも、尚経を渡さずとぞ。其得がたき可知。チョーマー其内二部 を厚恩により得たり。而して印度及英国の両亜細亜学会に寄付せり。
		9	西依、藤堂、石丸、岡本へ葉書出。午前、松本菊勇君を訪ひ、清国 近状を聞き、芝を経て宝亭送別会に行。古河、白山、古田、青年会 へ寄る。午後、面語す。午後1時。神田淡路町一丁目宝亭で送別会 を受ける。夜、白山来訪。帰途、詠帰舎へ寄る。宮島先生に面し、 清国の状況を聞き、規則書を和漢40部預り、重慶其他支那へ配 分を頼まる。安藤より葉書送付。南條先生より薄贐一封、千金丹8、 感応丸3、万金膏30、宝寿30、以上薬71包拝受。
			※出席者は、安藤弘、境野哲海、田中治六、三石賤夫、三島中洲、梶宝順、渡辺海旭、海野詮教、 梅原融、桜井義肇、秦敏之、枚村慶太郎、近角常観、宝閣善教、古田復之、南條文雄先生、高嶋大円 の17名普通教校、文学寮、哲学館、反省会、経緯会、詠帰舎を通しての友人たちであった。
		10	朝、6時20分新橋発。宮嶋大八、青柳、松本、濱田、宮島、向山、新橋送らる。夜8時52分、京帰着。 与けは又又又又延引とは、あきれ果てる事也。三好香山及南條師と2本書面及葉書着。
		11	饒宅に行。明日一行出発と聞く。始めて聞き和田を訪ひ、長坂、北方、尾張を回り帰り、朝飯直に本山行。 服を受取り又喇嘛へのを受く。夫より金を受取る。東京往復10円78銭、並に西藏探検費1000余円の内 3分の1、370円受取これ重慶迄の旅費及重慶5ヶ月滞在費並に北京旅費、在京滞在費也。これより法主へ 拝謁、御戸御礼あり、一同帰宅。旅券受取る。午後、瓦町大黒屋に地図1、字書3、を求め、京極四条にて 支那かばん、毛つとを求め車にて帰り、大久保、長坂、春日、歙門典、淀、水野、登等来る。夜5時中村に 送別会行。石川舜台の話あり。7時半帰宅。水野、登、予3人、汽車にて8時発10時、神戸。
		12	朝、常葉舎行。船切符を求め一行14名の内一名岩崎残り13名。10時半乗り。11時神戸港出船。西京丸 2913トン 船長コンナア氏。南條、国元へ電報。国兄、麦生富、安藤、松原、斉藤、南條へ同く葉書出す。
		14	午前7時、上海へ上陸。※以後、2年半の間に、3回にわたって1万2千キロを踏破し西藏探検を試みた。
		29	反省会へ「西藏探検の方法」原稿6枚送る。
32	12	20	「浄蓮寺波佐教会規約八條」を稿了する。硯台7個購入。
		22	「思想の変遷」9項目を書く。※仏教研究は、「西藏学研究」が最も重要との考えに至ったことを記述する。
33	3	26	「般若心經西藏文直訳」梵・藏・漢・英対照訳出訂正完成。帖記帳2冊、筆一本、時計購入。
	5	4	筆三本。手帳三冊。ダルツェンドから南條文雄博士宛てに「金剛經」蔵葉57葉、訳本4冊小包で発送。
	5	16	本山あて「金剛經」・「般若心經」・ほか二部の西藏経文の直訳を送付する。※「西藏ボン教」も翻訳。



【解説】 ※この年表は、能海寛の「春秋日記」、「手帳記録」、「出納記録」、「紀行記録」によって作成。

能海寛の「新仏教徒」運動の原点を探るため、関連する事象の年表を作成して、事実確認を試みた。

機関誌『石峰』第15号(2010.3.15)掲載の拙著「能海寛の深層心理を探る」5.『思想の変遷』に見る深層」を、ご覧いただき、この「能海寛の『新仏教徒』運動の軌跡」の年表を対照され参考に供されたい。

少年期に7年間、実家を離れての生活で培われた処世術が人々を吸引する能力が育まれたものと考えられる。多くの仏教学者(古谷覺寿、小永井小舟、小栗栖香頂、南條文雄、井上円了、大内青巒、島地黙雷など)と多くの友人(普通教校、反省会、慶応義塾、哲学館、経緯会など)のネットワークを持ち、互に向上する会話(デスカッション)を好んでいた。宗派、思想の違いを超えて、「和して同ぜず」の精神が多くの人たちとの交流があったものである。

また、断つべきものは、①名誉心、②女色心。増殖すべきものは、①智恵、②慈悲、③道徳。と自戒心を表している。独特のスケジュール管理を持ち、日曜日は、毎月第一・第三は、図書館。第二・第四は、漫遊。と自己管理を徹底するとともに、夕食後は必ず2時間、散歩することを心がけ、健康管理にも努力していた。

統計を好み、筆まめで、受信、発信記録を書き留め、返信は即日、速やかに行なっていた。即ち、自己管理が出来て「信後の行」が実践されていたことに尽きるといえる。

聖地巡礼を通して、先達の辿った環境を実地に体験するなど、実践を活かした求道の道と海外にまで日本の仏経を英文で伝えたいと熱望した心意気は、「新仏教徒」運動に強く反映されている。その為には、仏教の原典といえるサンスクリット語經典の入手は必須であった。

彼の「新仏教徒」運動を辿ってみると、明治15年から受講した、「石見学場」における夏期講座の高塚和上師の講話に触発され向学心が生れた。広島教校を経て京都普通教校へ入学。学友を得て、反省会へ参画、校内の同志に呼びかけ、「英作文会(E.C.S)」を結成。英作文雑誌『NEW BUDDHIST(新仏教徒)』を発行する。会員は総勢47名であった。

日本の布教は、郷国の僧侶を教化し、時々、巡回して布教し、又郷村、近村、檀家の布教を充分になすを以て英文会の日本の布教とす。世界の布教は、各国普通語なる英語をもって仏学を訳し、或は説明して事典、雑誌、新聞を以て布教することを考えていた。このことが、正に「新仏教徒」運動の原点といえる。

この頃は、英文会員との文通は、申し合わせにより、全て英文で行っていた。仏教者も普通学を学び応用力を身に着けることが必要と考え東京で学ぶこととして、英作文会を前田得念と河野始治に移譲して上京する。

慶応義塾に入学して、4級生を中心に東京版の英文会(E.C.S)を21名で組織した。月刊の英文集『Wisdom and Mercy』(智恵と慈悲)を発行した。仏典を英訳する際に梵語を学ぶ必要を感じ、梵文經典の少ないことで、26年に哲学館修了後、『世界に於ける佛教徒』を自費出版して、自ら仏典入手の西藏探検行動をおこした。

更に、「新仏教徒」運動を発展させる為に25年3月に、趣意書を作成して各界各層(宣教会、文学寮、内学院大学寮、高中、尋中、南條文雄、井上円了など)へ働きかけた結果、4月8日、降誕会が開催された。

経緯同盟会の出発点は、23年2月、古河勇と能海寛が豊岡町の龍源寺で同宿(自炊)していた頃からの「新仏教徒」運動が実を結び経緯同盟会を経て、27年に古河勇が中心となり「経緯会」が結成された。

能海寛は、海外で、古河勇は、国内で、それぞれの立場で「新仏教徒」運動を進展させようとした二人のシナリオが古河勇の病魔による急逝によって「経緯会」の方向性が大きく変わっていった。

しかし、『世界に於ける仏教徒』へ裏書によると、「名誉の遠く及ぶは光明也、信用あり尊敬せらばは智徳也、此書、将来佛教徒の予言者たるを得ば幸いなり。」と書き込んでいる。宗教革命の時至れり、大乘経、宗教判釈、道理判釈、佛教の三大変遷(奈良・京都・東京)、梵学の将来、西藏国探検萬紀、因果争論、親鸞伝篇、佛教史発行、大乘非仏説論、肉食論、仏弟子古今の事跡、開教局欧文新誌、大谷派本願寺問題、根本的破壊文字、世界主義、新説教論。これらを新規に追加する考えであったと思われる能海の早すぎる他界が惜しまれるのである。(文責：隅田正三)

能海寛の購読著書の一部

